

発見された遺構と遺物

昨年度の調査では、弥生時代・古墳時代・平安時代の^{たてあなじゆうきよあと}竪穴住居跡38軒などがみつき、今年度の調査では古墳時代・奈良時代の^{どこう}竪穴住居跡24軒、^{ほったてばしらたてものあと}土坑12基、掘立柱建物跡1棟、性格不明遺構1基などの遺構と、縄文時代・弥生時代・古墳時代・奈良時代の遺物がみつかりました。

縄文時代

縄文時代早期末(約7,000年前)の土器や石器が出土しました。当時の人々が、海や川に近いこの丘陵上に住み、狩猟を行っていたことが想定されます。

弥生時代

昨年度の調査では弥生時代中期(約2,000年前)の竪穴住居跡が1軒見つかりました。今年度はスプーン状土製品が出土しました。

古墳時代前期

今年度の調査で、古墳時代前期(約1,700年前)の竪穴住居跡が17軒みつかりました。昨年度分も合わせると28軒になります。平面形は一辺約3~6mの正方形のもので、住居の床面には中央付近に炉、主に南東隅に貯蔵穴があります。36・56号住居跡は焼土や炭化材が多くみつかったことから、焼失住居と考えられます。また、37号住居跡からは長さ1cmの^{まがたま}勾玉がみつかり、49号住居跡からは多くの土師器がまとまってみつかりました。

古墳時代終末期

今年度の調査で、古墳時代終末期(約1,400年前)の竪穴住居跡が4軒みつかりました。昨年度分も合わせると26軒になります。平面形は一辺約3~5mの正方形で、東壁あるいは北壁にカマドがあります。39号住居跡は焼土や炭化材が多くみつかったことから、焼失住居と考えられます。また、54号住居跡のカマド脇からは^{すえき}須恵器と土師器が入れ子の状態でみつかりました。

奈良時代

奈良時代(約1,300年前)の竪穴住居跡が3軒みつかりました。平面形は一辺約3mの正方形で、東壁にカマドがあります。45号住居跡は焼土や炭化材が多く出土したことから焼失住居と考えられ、この45号住居跡からは底面に墨で文字が書かれた須恵器、58号住居跡からは底面に「千」と刻まれた土師器がみつかりました。

このほかに、^{かじ}鍛冶関連の鉄滓や^{てっさい}金床石もみつかり、時代・性格は不明ですが、内側に1×1間の掘立柱建物跡を持つ隅丸形状に溝が巡る遺構(2号性格不明遺構)もみつかりました。

昨年度の調査成果も加味すると、古墳時代前期の集落跡が調査範囲の北側を中心に形成され、古墳時代終末期の集落が中央にやや空間を持ちながら全体に広がっていたことが判りました。また、昨年度はみつからなかった奈良時代の竪穴住居跡がみつかったことも今回の調査の大きな成果といえます。



鹿屋敷遺跡 現地説明会資料

日時 令和元年9月21日(土)
午後1時00分~

調査場所: 双葉郡浪江町大字棚塩字狐塚
調査面積: 2,380㎡
調査期間: 令和元年5月28日~
令和元年9月30日(予定)
調査主体: 福島県教育委員会
調査機関: 公益財団法人福島県文化振興財団

はじめに

福島県教育委員会では、県道広野小高線整備事業に伴う鹿屋敷遺跡の発掘調査を昨年度に引き続き実施しています。県道広野小高線は浜通り地方を南北に通る常磐自動車道、国道6号と並んで海岸部の重要な南北軸として整備が進められています。

鹿屋敷遺跡は、JR常磐線浪江駅の北東約3.5kmの河岸段丘上に所在する広大な遺跡です。これまでに、浪江町教育委員会により発掘調査が4度実施され、古墳時代を中心とする集落跡がみつかり、本遺跡が立地する丘陵の南辺には^{きつねづか}狐塚古墳群・^{あんよう}安養院古墳群・^{どうのもり}堂ノ森古墳が所在し、西方約2.2kmには^{もとやしき}県指定史跡本屋敷古墳群、北西約1.6kmには^{きたなかやち}北中谷地遺跡など本遺跡と同時期の古墳や集落跡が分布しています。

今回の発掘調査では、昨年度に見つかった古墳時代の集落跡の続きと、新たに奈良時代の集落跡がみつかりました。

周辺の主な遺跡

- 1 鹿屋敷遺跡
- 2 狐塚古墳群
- 3 安養院古墳群
- 4 岩穴前横穴墓群
- 5 堂ノ森古墳
- 6 植畑遺跡・貝塚
- 7 北原遺跡
- 8 渋井遺跡
- 9 本屋敷古墳群
- 10 藤橋古墳
- 11 北中谷地遺跡
- 12 赤坂A遺跡
- 13 赤坂B遺跡
- 14 赤坂C遺跡
- 15 赤坂D遺跡
- 16 植松遺跡・古墳群

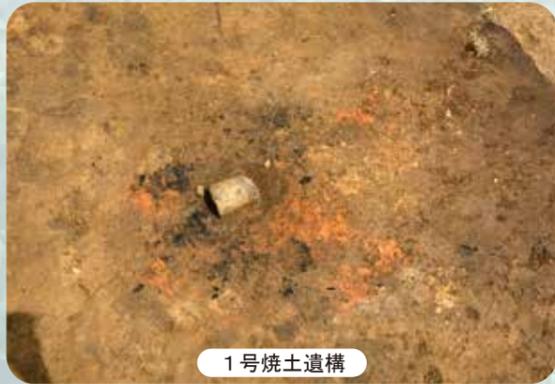
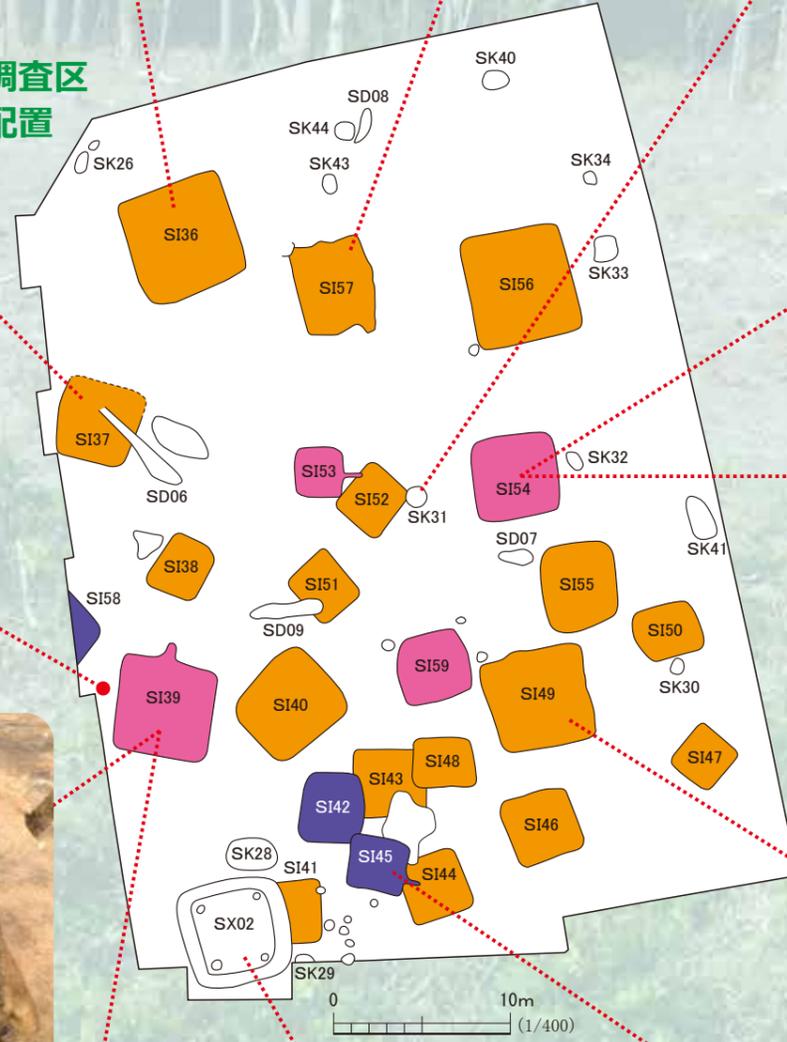


今年度調査

昨年度調査



今年度調査区
遺構配置



今年度調査中